

望クリニック整形外科

AKAの開発により
痛みやしびれの本当の
原因がわかってきた

現在、整形外科的な痛みやしびれの診断はレントゲンやMRI等の画像診断が主流です。狭窄、ヘルニア、すべりや軟骨のすり減り等があるとそれを痛みの原因と考え、画像の異常に沿った病名が付けられます。腰痛の場合は異常がないと、よくわからないものとして腰痛症や非特異性腰痛、下肢に症状があると坐骨神経痛などと診断されます。飲み薬、湿布、温熱療法等保存的に治療し、改善しないと手術でその異常部位を治すのが最終的な治療とされています。しかし、手術で異常部位を正常に戻しても症状が治らない人が少なからずいます。それは画像に写る狭窄、ヘルニア、すべりや軟骨のすり減り等の異常が症状の本当の原因ではないことが多いからです。

腰部脊柱管狭窄症、ヘルニア、すべり症、変形性股・膝関節症等、
整形外科の痛みに対して、保存的な治療で改善しないと「手術」と言われる方は多い。
しかし本当に最終的には「手術」しかないのだろうか、
手術の必要が本当にあるのだろうか。AKA-博田法で診療にあたる
望クリニック院長の住田憲是先生に語っていただいた。



腰部脊柱管狭窄症、滑り症で手術を予定していた症例

▼AKAを5回行う事で腰痛と下肢のしびれはほとんどなくなり手術は中止となった。写真は痛みやしびれ消失後のMRIで、狭窄、すべり症は全く変わらない。このことから画像に基づく病名が痛みやしびれの原因ではなく、背骨にある関節の機能障害が本当の原因であったと言える。手術の前にAKAを受ける重要性を示す症例であった。

それでは「手術をしても良くならない」「一時的に良くなったもしばらくすると再発する」「異常がなくてよくわからない」と言われた痛み「これらの症状の本当の原因は何か？その答えとなる痛みやしびれの診断を兼ねた治療法が近年開発されました。「AKA・博田法(以下AKA)」という関節内部の微細な動きの異常(以下関節機能障害と記す)を治療する手技療法です。AKAで背骨にある関節を中心に関節機能障害を治療すると腰下肢、股関節、膝だけ

でなく、頸肩肘から手指まで、治療した関節とは遠く離れたいろいろな部位の痛みやしびれ、コリ等の多くが画像上の異常と関係なく変化します。これにより、症状の本当の原因は関節機能障害であると診断できます。関節機能障害が原因の場合、AKAで治療していくことで痛みやしびれ等の症状はよくなるでしょう。最近では整形外科の痛みの原因は、神経の障害や軟骨のすり減りよりも関節機能障害の方がはるかに多いという学会報告もあります。

手術の前にAKAを

関節機能障害が原因の場合、手術をしても痛みやしびれは改善しないことが考えられます。言い換えれば、手術で良くならなかった方は関節機能障害が本当の原因である可能性が高いと言えるでしょう。腰に限らず、股関節(図参照)、膝関節など整形外科の手術で痛みやしびれを治すこ

とを目的にしたものは、画像による診断にとられることなく、術前にAKAを行い、本当に手術が必要なのか？手術をすれば治るのか？を見極めるといいでしょう。

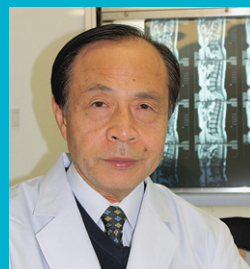
整形外科の痛みやしびれの治療に特化

当院には脊柱管狭窄症やヘルニア、すべり症、変形性股・膝関節症と診断され手術を予定している方が多数来院されています。手術が必要と診断されても、AKAで治療すると症状が改善し、手術が不要になる場合が多々あります(図参照)。AKAは異常のある関節を軽く手で押す程度で、ほとんどの場合痛みを伴うことはありません。一見簡単そうなお治療ですが、高度の熟練を要します。技術が未熟だと正確な診断・治療ができません。当院は2010年1年間

先端医療レポート

グッドクター
Goo Dr.

選ばれる病院



院長 住田 憲是

すみた・かずよし/岐阜薬科大学を卒業し薬剤師に。痛みの治療に興味を持ち漢方薬も含めた薬のみによる治療を行うも眼界を感じ医師を目指す。その後、東邦大学医学部を卒業し日本整形外科学会認定整形外科専門医になる。手術、ブロック等、先進の治療を駆使するも治癒しない痛みの多さに、現在の整形外科に不足しているものがあると感じる。1988年AKA-博田法に出会う。これこそ不足を補うものと思い、以後今日までAKAを中心に痛みの治療に特化して望クリニックで診療にあたる。東邦大学医学部客員講師。埼玉医大客員講師。

Hospital Data

医療法人社団
望クリニック整形外科

所在地	東京都豊島区雑司が谷2-4-1
URL	www.nozomi-clinic-japan.com
TEL	03-3986-7889
FAX	03-3986-8041
診療時間	午前 8:30~12:30(火~土) 午後 14:30~17:30(火・水・金・土)
休診日	日曜・月曜・木曜午後
	完全予約制・自由診療※

変形性股関節症に対するAKA治療後の写真

▼股関節の痛みでほとんど歩けない状態であり手術も考えていた。AKA治療後、疼痛の軽減がみられた為AKAを継続して行った。現在2か月に1度のAKAでほとんど痛みなく日常生活をおくれている。痛みの原因は、目に見える変形ではなく背骨にある関節の機能障害が原因であったと考えられる。このようにAKAにより手術をしなくても例は多い。



で初診が約900名。院長は現在までの24年間で約3万例以上の実績があります。詳しくは当院HPをご参照下さい。